



前南進路だより

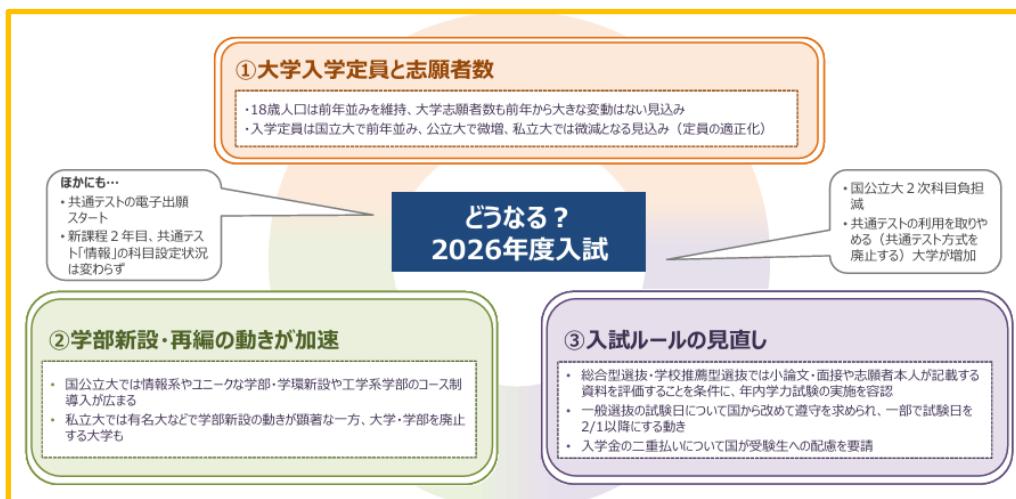
R7・第9号 11月5日発行

1、河合塾 第2回大学入試情報分析報告会（第1回）

(1)『第2回全統共通テスト模試』結果から見る 2026 年度入試動向

7月28日（月）・29日（火）に実施した『第2回全統共通テスト模試』の結果をふまえて、2026年度入試動向について、Web配信による報告会が現在も開催されております。夏休み中の実施した模試であるため、志望校の変更をしている受験生もいると思われます。あくまでも、2026年度入試動向について、全体の概要や特徴を把握しておくことは本番に向けて大切だと思います。そして、1・2年生の皆さんも、今後の学習や志望校の決定にいかして欲しいと思います。

(2) 2026 年度入試の環境 ※河合塾資料参照



① 大学入学定員と志願者数

- ・18歳人口は前年並みで維持 (109.3万人: 昨年度から+0.2)、大学志願者数も前年並み・微増
- ・入学定員は国公立大で前年並み、公立大で微増、私立大では微減となる見込み (定員の適正化)

※ 私立大の定員厳格化 … 2016年度以降、文部科学省が大学への補助金を減らすことを通じて、
入学定員を大幅に超えて学生を受け入れる大学を是正

※ 定員厳格化の緩和 … 2023年度から、定員厳格の緩和を導入。大学全体の総定員数 (1~4年生の合計) で超過率を判断 = 「収容定員」

収容定員規模	2023 年度	2024 年度	2025 年～
4,000 人未満の大学	1.5 倍	1.4 倍	1.3 倍
4,000 人以上 8,000 人未満の大学	1.4 倍	1.3 倍	1.2 倍
8,000 人以上の大学	1.3 倍	1.2 倍	1.1 倍



上記の基準を超過すると私学助成金が減額または不交付となるため、大学は合格者数をより慎重に調整する必要があります。また、既存学部の収容定員充足率が5割以下の場合は、新たな学部設置が認められない基準が設けられました。そのため、大学によっては合格者数の絞り込みや追加合格の小刻みな発表が行われる可能性があります。(同じ学力でも、以前よりも合格が難しくなる?)

※主な私立大一般選抜の合格者増減と倍率変動の例（2025年）（螢雪時代11月号参照）

大学名	志願者数		志願 指數	合格者数		合格 指數	実質倍率 (24年→25年)
	2024年	2025年		2024年	2025年		
首都圏							
青山学院大	47,109	50,672	108	11,516	11,190	97	3.8→4.2
学習院大	20,245	22,788	113	5,372	5,110	95	3.8→4.5*
慶應義塾大	37,600	40,132	107	9,803	9,956	102	3.5→3.7
國學院大	20,446	24,794	121	5,554	5,492	99	3.6→4.4
駒澤大	30,893	32,696	106	10,333	10,017	97	2.9→3.2
上智大	29,569	29,096	98	8,243	8,459	103	3.5→3.3
成蹊大	21,481	22,279	104	5,592	5,408	97	3.6→3.9
専修大	51,289	49,022	96	16,146	14,056	87	3.0→3.3
中央大	65,993	73,803	112	17,685	15,320	87	3.5→4.5
東京理科大	52,261	57,039	109	16,892	17,673	105	2.9→3.0
東洋大	102,910	113,762	111	32,598	27,823	85	3.2→4.1*
日本大	75,839	92,232	122	31,870	32,695	103	2.2→2.6
法政大	102,169	105,107	103	22,856	23,753	104	4.3→4.2
明治大	109,159	115,323	106	26,422	27,583	104	3.9→3.9
立教大	56,495	62,829	111	16,094	15,388	96	3.5→4.1*
早稲田大	89,420	95,938	107	15,642	15,336	98	5.7→6.3*

← 2025年度入試では、難関～中堅上位校で志願者増の一方で合格者が絞り込まれ、実質倍率（受験者数÷合格者数）が軒並みアップした大学がありました。2026年入試も同じ傾向が続くと見られますが、「志願者増・合格者減」が顕著だった大学（学習院大・中央大・立教大他）は、その反動が見込まれるかもしれません。

② 学部新設・再編の動き

※2026年度 主な大学の学部新設（河合塾資料参照）

国公立大		私立大	
大学	学部・学環	大学	学部・学環
旭川市立	地域創造	成蹊	国際共創
山形	教育	中央	基幹理工
福井県立	地域政策		社会理工
長野	地域経営		先進理工
	共創情報科学	東京理科	創域情報
山口	情報	立教	環境
佐賀	コスメティックサイエンス	京都産業	アントレプレナーシップ
熊本	共創	立命館	デザイン・アート
		近畿	看護

【県内大学の動き】

～群馬大の入試変更点～

- ①共同教育で後期を募集停止
- ②医（保健=看護）【前】【後】で、共テを8→7科目（理科2→1科目）に軽減
- ③医（保健=看護）【前】で2次を「小論文→外国語・面接」
同（同=検査技術科学、理学療法学、作業療法学）【前】で2次を「小論文→数学・理科・外国語」に増加
- ④医（保健）【後】で2次を「小論文→面接」に変更

～前橋工科大の入試変更点～

- ①工で募集人員を「前期180人→156人、中期24人→48人」に変更（前期→中期に移行）
- ②工【中】で2段階選抜の予告倍率を「約40倍→約20倍」に引き締める
- ③工【前】【中】で、募集単位を「学群一括募集→プログラム別募集」に変更

～前橋国際大の新設学部～

- ・デジタル共創学部 新設

③入試ルールの見直し

- ・2025年度に、首都圏で東洋大・大東文化大などが導入した学校推薦型選抜「基礎学力テスト型」の入試をふまえ、「令和8年度大学入学者選抜実施要項」で2月1日以前に学力試験を実施する場合、小論文・面接や提出書類など他の評価方法との組み合わせを条件に可能となったようです。その影響を受けたのが、以前から同様の入試を行ってきた関西地区であり、京都産業大・近畿大など多くの大学で志望理由書・自己推薦書等の事前提出の導入が相次ぎました。
- ・入学金の二重払いについて、文科省によると国立大学の入学金は約28万円、私立大学の入学金は約24万円とされており、決して安価ではありません。直近3年以内に受験した大学生の約27.0%が二重払いを経験しているという調査結果もあります。2025年6月下旬、文科省は全国の私立大学に対し、入学金の負担軽減策を検討するよう通知しました。文科省は具体的に、以下のような負担軽減策を例として挙げております。

※ 入学金の分割払い … 入学金の一部を先に納め、残額は最終的な入学決定後に納める方式

※ 返還制度の導入 … 入学辞退の時期が早い場合など、追加募集で代わりの入学者を確保できる見込みがある場合に、納付済みの入学金を返還する制度